

観察研究「ラマン分光法やSHG(Second Harmonic Generation), THG(Third Harmonic Generation)を含むCNOM(Coherent Nonlinear optical microscopy)を用いた肺癌検体、肝細胞癌検体の測定・解析」について

筑波大学附属病院病理診断科では、標題の臨床研究を実施しております。
本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

ラマン散乱は、分子に光が当たった際に散乱される微弱な光です。その微弱な光の波長は、光が当たった試料の化学結合に依存するため、ラマンスペクトルは”分子の指紋”ともよばれ、未知の試料の判別や測定に使うことができます。本研究では、九州大学加納研究室の筑波大学における分室の、ラマン散乱を測定可能な光学測定装置を用いて、筑波大学附属病院で手術された、つくばヒト組織バイオバンクセンター(以下バイオバンク)に保存されている肺癌・肝癌の検体を測定し、新たな知見を獲得し、新しい肺癌・肝癌の診断法を確立することを目的とします。

② 研究対象者

つくばヒト組織バイオバンクセンターに保存されている、筑波大学医学部附属病院で手術を施行された肺癌・肝臓癌の患者さんの検体を対象とします。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2024年3月31日まで

④ 研究の方法

つくばヒト組織バイオバンクセンターに保存されている肺癌・肝癌の検体のうちの一部を筑波大学第三エリア内に存在する、九州大学大学院・加納研究室の分室に運搬ののち、光学測定装置でラマン散乱等を測定し、存在する物質・分子の種類や局在を調べます。得られたデータを解析し、従来の診断用の標本や、脂質解析の結果との比較検討をします。

⑤ 試料・情報の項目(具体的に記載すること)

肺癌・肝臓癌の検体と、それにまつわる診療情報

⑥ 試料・情報の第三者への提供について(該当する場合は記載)

なし

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院診断病理部 教授 松原大祐

⑧ 研究機関名および研究責任者名

筑波大学附属病院診断病理部 教授 松原大祐

九州大学大学院理学研究院 教授 加納英明

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族(ご遺族)が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されて

いる場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：診断病理学研究室 担当 湯口 周

メール：shuyuguchi@gmail.com

（対応可能時間：平日 9～17 時（目安）